愛知県専門委共同座長2人

長良川河口堰を視察

長良川河口堰（せき）（桑名市）の開門調査の可否を検証している愛知県の専門委員会の委員二人が、桑名市を訪れ、堰周辺でシジミの生息状況調査を見学したり、地元の漁師や住民と懇談したりした。

専門委で共同座長を務める小島敏郎青山学院大教授と今本博健京都大名誉教授が個人的に訪れた。シジミの生態変化を調べている市民団体「しじみプロジェクト・桑名」の会員ら八人と漁船に乗り、河口堰の上下流と揖斐川の計三カ所で川底の土砂を採取。揖斐川では多くのヤマトシジミを確認したが、堰上流部では真水に生息するシジミがわずかにいただけだった。

一方、シジミが激減したはずの堰下流部では、二～三キロのヤマトシジミを確認。今本委員は「数年前から、堰の底から一時的に水を流す操作を始めた効果では。開門すれば、もっと増えるかもしれない」と期待した。

同市の赤須賀漁業協同組合では漁師三人と懇談。代表監事の樋口利夫さん(六二)は「堰ができてシジミがいなくなった。開門すれば、状況を打開できる可能性がある」と訴えた。

同市長島町でも、堰の建設反対運動をした住民ら六人と話し合い、出席者から「堰がある方が台風や高潮のときに危険が大きい」などの意見が出ていた。

（島崎諭生）